

「愛に触れよう」
ヨハネ3：16-17

鄭ヒムチャン

- ・前奏
- ・開会賛美 讚美歌217番「あまつましみず」(代表者)
- ・祈り
- ・主の祈り(代表者)
- ・説教「愛に触れよう」ヨハネ3章16-17節

1. 導 入

私たちは今、新型コロナウイルス感染拡大により、これまで経験したことのない日々を過ごしています。あらゆる行動が制限され、人々が集まることができなくなりました。私たちが日々当たり前のよう
にしていたことは、ある日を境に当たり前ではなくなっていました。つい3ヶ月程前の過去の日々
がいかに豊かなものであったかを思い起こすと同時に、私たちは今、忍耐の日々を過ごしています。

「いつになったらこの状況が終わるのか。」なかなか終息が見えない中、苛立ちが募ることも増えてき
たように思います。今の状況を私たちクリスチャンはどう受け止めればよいのでしょうか。順境の日々
は主を喜べても、逆境の日々を通る時、私たちは「実は神様は冷たいお方なのではないだろうか」とだ
と錯覚してしまうことがないでしょうか。

しかし、神様は「そうではない」とはっきり語ってくださっています。

聖書 ヨハネ3:16-17

**「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅
びることなく、永遠の命をもつためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によ
って世が救われるためである。」**

神様は私たちを放って置かれる冷たいお方なのではないでしょうか。いいえ。みことばははっきりと語っていま
す。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。」神様はこの世界を、私た
ちを愛しておられるのです。

神様は私たちへの愛をどのように示されたのでしょうか。読んだみことばにあるように「実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。」のです。神様はたったひとりの子を私たち人間のために与えるということを通して、ご自身の愛を示されました。

第1ヨハネ4章10節 においても、このことが記されています。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

神様は私たちを愛し、私たちのためにイエス・キリストをお与えになられたのです。

心が暗くなりやすいこの時、私たちは思い起こしましょう。神様は昔から、そして今も変わらず私たちを愛しておられるということ。これは言葉による口先だけの愛ではありません。現に私たちには今もイエス様が与えられているのです。

ですから今日、私たちはこの与えられた良い知らせを今一度思い起こしましょう。

私に今もイエス様が与えられている。これが私たちの人生を変える福音です。

2. 愛に触れよう

ウィルス感染の拡大により、私たちは今あらゆるものとの接触を避けています。人に会うこと、物に触れることを極力控えながら生活しています。これほどまでに人やものに触れないよう注意して生活するのは、生まれてこのかた初めてではないでしょうか。しかし、今触れないように気をつけている私たちが今だからこそ一層触れなければならないものがあると思うのです。それは神の愛として与えられたイエス様です。

聖書に12年間、出血の病を患っていた「長血の女」の話がありますが、この女性はこの神の愛として人類に与えられた主イエス様の噂を聞き、こう確信しました。

マタイ9:20「(あのお方の)お着物にさわることでもできれば、きっと直る。」

私たちも確信をもってイエス様に触れたいと思うのです。

いや、今ここにおられる皆さん。そして離れていてもオンラインで心をつなげている皆さん。私たちが今この時、主イエス様に触れたいと思ってこの場所にいるのではないのでしょうか。私には希望がないけれど、イエス様のもとには希望がある。そう思って、そう願って、今神の御前に出てきたのではないのでしょうか。ウィルスが猛威を振るうこの時も、私たちの望みはイエス・キリストにあります。

① 恐れるな、わたしがともにいる

今世界中の人々の心の中において、日に日に大きくなっているものがあります。それは恐怖です。恐れです。日毎に数を増す暗いニュースや間違っただ情報が私たちの心に恐怖をもたらします。さらには今の状況はこうも私たちに語ってくるのです。「もしも感染していたらどうする？」「周りになんて言われるだろうか。」そうささやいてきては、私たちに恐れを抱かせます。

しかし、神様は私たちが恐れてしまう存在であることを良く知っておられるのです。だから聖書を通して神様は私たちに繰り返し「恐れるな」と言われるのです。しかし、そうは言われても恐れてしまうのが私たちではないでしょうか。ですから、神様はただ一言だけ「恐れるな」と、冷たく一蹴されるようなことはなさりませんでした。私たちが恐れてしまうことを神様はどうに知っておられるのです。それ故、神様はこう語りかけてくださいました。

イザヤ41:10

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」

神様は私たちが恐れてしまう存在であることをよくご存知です。逃げたくなるような弱さをもっていることをよくご存知です。それで神様はどう決断されたのか。一緒にいることにしたのです。「わたしはあなたとともにいる」と一緒にいることにしたのです。

ヨハネ3章13節

「だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。」

私たちは恐れてしまいます。だからこそイエス様が天から下りこの世界に来られたのです。「あなたが恐れているから、怖がっているから、苦しんでいるから、途方にくれているから、私はあなたと一緒にいることにした」と決められたのです。

・夜明けを知らせる「明けの明星」

この5月、日が暮れると西の空にひときわ強い光を放ちながら輝く星があります。金星です。この時期の金星は日没とともに見えるようになるので「宵の明星」と言われています。日が沈み、暗い夜がやってこうよとする時、このきらきらと輝く金星を見ますと何だか力づけられるような気がします。ですが、この金星もう少しすると見れなくなってしまいます。でもそれで終わりではありません、しばらくするとまた見えるようになります。しかし、今度は日没ではなく、夜明けの時に輝くのです。太陽よりも先に金星が昇り、夜明けを知らせてくれます。故にこの時期の金星は「明けの明星」と呼ばれます。実は聖書において、イエス様はご自分のことをこの「明けの明星」と紹介されています。

黙示録22:16

「わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」

暗い夜明け前、明けの明星は空に昇り、私たちに知らせるのです。「夜明けは近い」と。今私たちを取り囲んでいる暗闇の中でも、イエス様は私たちが恐れないように共にいてくださいます。そしてこの暗闇の中で明けの明星であるイエス様は私たちに語りかけられます。「夜明けは近い」と。明けない夜はありません。イエス様に希望を頂いて、歩んで行きましょう。

② 私たちの罪を背負われたイエス

私たちが今戦っているのは、体の外から侵入してくるウィルスだけではなく。私たちは今、私たちの内側から出て、人々の魂を蝕む、人間の悪とも戦っているのです。

マルコ7章20-21節

20 また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。」

21 内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、

22 姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、

23 これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」

今回のウィルスは非常に強い感染力を持っています。しかし私たちの内から出るこの人の悪もまた、同じように感染していきます。ウィルス感染防止対策は私たちにとって今大きな課題ですが、この魂を破壊しようとする悪から、私たち自身を守ることは今私たちにとってより現実的で身近な課題なのではないでしょうか。

今回の新型コロナウイルスは接触・飛沫感染です。ですから私たちはできるだけ人や物と接触しないように努めているわけです。しかし、ですがいくら努めて注意してもウィルスに接触していないという確証はありません。だから少しでもウィルスを体内に入れないために、消毒し、手を洗い、マスクをします。

同様に私たちは魂を壊そうとする人の悪との接触を避け、手を洗うように心を洗い流さなければなりません。しかしこれが厄介なのです。なぜなら人の悪というものは外から入ってくるものではなく、私たちの内にあり、内から出てくるからです。避けたくても、顔を見せ、洗い流したくても、しつこくこびりついて離れないのです。しかもこの悪はウィルスのように毒性があり、私たちの魂を蝕んでは滅びへと導くのです。

しかし神様はこう私たちに語ります。

ヨハネ3章17節

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」

御子イエス様が私たちに与えられたのは、私たちのこの悪による滅びからイエス様によって救われるためなのです。なんとイエス様は、ご自分は全く悪くないのに、私たちのこの内側にある全ての悪の代価を引き受けられたのです。人々からあざけられ、つばを吐かれ、罵られ、十字架にかけられたのです。そして途方にくれている私たちの救いとなってくださったのです。

神様の願いは悪い心を内に抱いてしまう私たちを裁くことではないのです。むしろ逆です。悪で苦しんでいる私たちがイエス様によって救われることなのです。私たちに今求められていることは、悪を自力で解決することではありません。ただイエス様の前に素直に心を開き、その救いを受けることなのです。今この時も私たちには主の救いが差し出されています。裁きではなく救い。破格の恵みです。

だから感謝して受け取りましょうよ。私たちのために十字架にかけられたこのイエス様を仰ぎ見ましょう。仰ぎ見るものは生きるのです。

③ 分断ではなく、和解を

神様は私たちが滅ぶことを望まれず、生きることを切に望まれました。裁きではなく救いの道を開いてくださいました。しかし、更に驚くべきことが起こったのです。

第2コリント5章19節(何が起こったのか)

「すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。」

神様はイエス様の十字架を通してわたしたちと和解され、違反行為の責めをわたしたちに負わせることなく、むしろ今度はあなたが和解のことばを語りなさいと委ねてくださったのです。なんと神様は私たちを的はずれな人生から救い出して下さるだけでなく、私たちに和解のことばを語る者としての使命を与えてくださいました。

・和解のことばに触れた体験

和解のことばというと、私には強く印象に残っている出来事があります。

2016年のTEENSコイノニアでの出来事です。2016年のTEENSコイノニアは全6日間の日程で、両教会合わせて100人以上の仲間たちが集まりました。更にはそのうちの2泊3日間をキャンプで群馬に行くという非常に壮大な交わりでした。そのために早くからコイノニア委員会、ティーンズ教師を中心として、テバン教会と密に連絡を取り合いながら、事細かく準備をしていました。

しかし、実際テバン教会の学生たちを迎えてキャンプを過ごしてみると、計画どおりと言うよりは、臨

機応変な対応が必要な時が多くありました。

キャンプ1日目の夜の教師ミーティングのことでした。事前に入念に準備されていたプログラムでしたが、次の日のプログラムの進行方法について、修正を求める意見が出されたのです。教師たちの意見はあちらこちらに飛びまわり、夜遅く疲れもたまり、判断力も鈍り、フラストレーションもたまる中で、なかなか意見が集約する方向を見出せませんでした。両国間の文化の違い、物事の進め方の違いにお互いどのように対処していけば良いか分からず、どまどってしまった。

そんな時でした。韓国テバン教会のキムジンソン長老の一言がその場にいるすべての人の心を温かくし、一つにつなげてくれました。キムジンソン長老はこう言われました。「今回のキャンプはめぐみ教会が中心となって計画してくれたものです。ですから私たちはめぐみ教会の方針を尊重して、めぐみ教会が決めたことに従います。」と言われたのです。たとえ、テバン教会としては納得のいかない内容であっても、私たちはめぐみ教会の皆さんを信頼しているから、それでいい。キム長老のこの一言は、とげとげしく凍りついていた会議の場を一瞬にして溶かしただけではなく、私たち教師の心に相互信頼、相互尊敬の念を再び蘇らせてくれたのです。

今世界は分断のことばに満ちています。「こんな状況になったのはあのひとせいだ」、「こんな状況なのにあの人は」と人と人を分かち、国と国を分かち、分断のことばに満ちています。そしてこれは遠く、現実味のない話ではありません。まさにここにいる私の話です。私自身も分断のことばを口にしてしまう存在です。

神様はこんな私をみてどう思っておられるのでしょうかね。全部はわかりませんが、確かだと思えることはあります。それは神様はなんの引け目もなく「こんな状況になったのはあなたのせいだ」と、私を裁くことができるお方だということです。しかし、神様はできるのにそうはなさらないんですね。

今も私に、私たちにイエスキリストの十字架と復活の救いに生きなさいと、私たちとの分断ではなく、和解を望んでおられるのです。そして神様は言われるのです。この和解のことばをあなたにも委ねますと。

3. 結 び

まだまだ忍耐の時はずつきそうですね。この先も簡単ではないでしょう。しかし、こんな時だからこそ私たちにとって、今何が一番大切なことなのか一層はっきりしてきたのではないのでしょうか。それは神様が私たちを愛するが故に与えてくださった「イエスキリスト」です。

イエス様が今も生きてともにいてくださるから、私たちは恐れず明日を見ることができます。イエス様が私のために死んでくださったから、私たちは罪悪感で苦しまず、希望を持って歩めます。イエス様が神様との隔ての壁を打ち壊し、和解をもたらしてくれました。

そして今わたしたちには裁きではなく、祝福としての和解のことばが委ねられているのです。私たちに与えられた神の愛である、イエスキリスト、この愛に触れましょう。私たちは今ふれあえなくても、このお方は必ずわたしたちを力づけてくださいます。そして希望を持って歩みましょう。夜明けは必ずやってくるはずです。

祈りましょう。

- ・ 祈り
- ・ 応答賛美 讃美歌453番「聞けや愛の言葉を」
- ・ 報告
- ・ 頌栄「2020年テーマソング」（代表者、手話）
- ・ 祝祷
- ・ 後奏